

# 青峰同窓会会報



白子駅(夜景)

## 訃報 加藤 政寿美先生

昭和37年4月の創立当初から平成2年3月まで本校の教育・発展に寄与されました数学の加藤政寿美名誉教授が本年1月2日にお亡くなりになりました。先生の授業は非常にわかりやすく、学生からの人気は絶大でした。誰からも信頼され多くの卒業生へ大きな影響を残されました。誠に残念です。ご冥福をお祈りいたします。  
(高専祭中の10月10日に「加藤先生を偲ぶ会」が開催されました。)

## 訃報 久保田 郁夫先生

久保田郁夫先生のご逝去に際し、謹んでご冥福をお祈り申し上げますと共に、先生のご功績および思い出を書し、追悼とさせていただきます。

私が国立鈴鹿高専に入学した平成4年(1992年)4月は、ちょうど創立30周年にあたり、各種記念主要行事が行われていました。入学して間もなくの4月28日に記念式典・祝賀会、翌日の4月29日には元横綱初代若乃花関による講演会が開かれました。今でも、心のこもった盛大な記念行事のことを記憶しています。その創立30周年記念行事を先頭切って、尽力されていたのが久保田郁夫学校長でした。ここで、久保田郁夫先生のご経歴をご紹介しますと思います。

久保田先生は三重県鈴鹿市出身(昭和5年生まれ)で、本校には昭和41年(1966年)4月に外国語(英語)教官として着任されました。また、外国語教官を担当されながら、昭和52年(1977年)4月から2年間にわたり図書館主事、昭和54年(1979年)4月から6年間にわたり教務主事を兼務されました。そして、昭和60年(1985年)4月1日に本校3代目の学校長に就任されました。平成5年(1993年)3月31日までの7年間にわたり学校長を務め、本校では27年間在籍されて退官されました。

久保田郁夫先生が学校長に着任されてからは、早々に運営会議の立ち上げや外部諸団体との連携など、新しい取り組みを積極的に進められました。主なご功績として、昭和60年度に工業高校卒業生から高専4年次への編入学制度を新設、昭和63年度に電子情報工学科を設置、平成2年度 米國オハイオ州立大学との学術交流協定、平成3年度 カナダ ジョージアン技術大学との学術交流協定、さらに平成5年度 本校専攻科の設置など、本校の発展に多大なる貢献をされました。

本校退官後は、高田短期大学学長、鈴鹿医療科学大学学長などを歴任されました。退官された後も、本校卒業式には数多くご出席され、高専生の更なる学力向上を国際的な視点から指導されました。

私と久保田先生との卒業後の思い出は、平成22年度に三重県議会議員に立候補することに決意したことから始まります。立候補に際し、まず最初に、しもの幸助後援会を立ち上げ、私は真っ先に久保田先生に初代後援会長を依頼しました。久保田先生は「(鈴鹿)高専生が頑張るなら、私も応援しようじゃないか」と快く引き受けて頂き、後援会長として手厚いご支援を頂きました。そのご支援に対しては感謝の言葉もありません。そして平成23年4月に34歳で初当選、また平成27年4月には2期目に当選させて頂きました。当選後の本年5月に久保田先生とお会いし、結果報告をしたところ「良かったね、これからも頑張ってな」と微笑んでくれました。その後、9月末に奥様から、急に主人が弱ってきたみたいとお電話を頂き、10月早々に小手川智 鈴鹿高専同窓会会長とお見舞いに行きました。その時は、残念ながらお話しはできませんでしたが、眠っていた目を開いて僅かに感じるほどの力で手を握ってくれました。それから久保田先生が10月3日に逝去されたとの連絡を受けたのは数日後でした。久保田先生は生涯にわたり、本校の使命である「国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により社会の発展に貢献する」人材育成に尽力されました。長きにわたり、本当にありがとうございました。

久保田郁夫先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 三重県議会議員 下野 幸助 (h09E卒)

## 訃報 小谷 信行先生

平成2～15年まで国語を担当されていた小谷信行先生が11月10日にお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 平成26年度青峰同窓会会計報告書

収入の部		金額(円)
摘要		
平成25年度からの繰越金		48,265,936
平成26年新入会員(25年度卒業生188名)より入会金・終身会費		2,068,000
預金利息		42,323
合計		50,376,259

収出の部		金額(円)
摘要		
会報発行経費		758,491
SNSサーバー構築費・利用管理費		260,280
事務費		91,258
創立50周年寄付 および先進的エンジニア育成基金寄付(26年度分)		21,000,000
平成27年度への繰越金		28,266,230
合計		50,376,259

誌名 青峰同窓会会報 発行日 2015年11月 発行 国立鈴鹿工業高等専門学校 青峰同窓会 広報委員会 〒510-0294 鈴鹿市白子町 TEL:059-386-1031 E-mail: almn@suzuka-ct.ac.jp

# INDEX

会長挨拶.....	1	転出教員.....	8
石岡繁雄先生業績展.....	1	■森 誠護 (九州共立大学 スポーツ学部)	
奥 貞二(45C卒)		新任教職員.....	9
卒業生便り.....	2	■横山 春喜(電気電子工学科)	
■OB親睦ゴルフコンペを終えて 伊藤 栄一(48E卒)		■藤野 月子(教養教育科)	
■ラグビー部懇親会 船越 邦夫(ラグビー部部長)		■西村 高志(電気電子工学科)	
■30年目の同窓会 佐川 浩彦(61E卒)		■岩本 仁志(教養教育科)	
■平成17年電気電子工学科クラス会 原 健(h22E卒)		■犬塚 勝美(電気電子工学科)	
定年退職を迎えて.....	5	■宝来 毅(教養教育科)	
■小倉 正昭(教養教育科) ■埜 克己(機械工学科)		訃報.....	13
■北村 登(電気電子工学科) ■奥野 正明(電気電子工学科)		加藤 政寿美 先生	
		久保田 郁夫 先生	
		小谷 信行 先生	



## ご挨拶



青峰同窓会 会長  
小手川 智  
(42C卒)

同窓会員の皆様にはお変わりなくご健勝のこととお喜び申し上げます。今年の夏は、家から一步外へ出ると熱帯地域になったかと思わせる暑さで我慢の日々が続き、全国的には集中豪雨が各地で頻発し、台風も強大な勢力のものが多くなり、火山活動が活発になり、過去にあまり経験をしたことのない竜巻情報が発令されたりしております。異常気象といわれて久しいですがこれが当たり前になるのではないかと心配になります。

昭和37年に入学した1期生が今年から来年にかけて古希を迎えることとなります。団塊の世代と言われる2期生から4期生の多くも退職される方が増えてきました。また還暦を迎え時間的余裕が増えることに伴って各地で学科の同窓会や恩師を囲む様々な会、クラブ活動の同窓会、ゴルフコンペなど趣味の集まり等々が頻繁に開催されるようになりました。そんなことから同窓会事務局に卒業生の現住所の問い合わせが度々あります。これには個人情報保護のため平成14年から卒業

生名簿を発行してないことが影響しております。一方で事務局は毎年会報を発行していますので卒業生の大部分の方の住所を把握しております。必要な場合は事務局にお問い合わせください。

さて、ご存知のように三重県では来年5月26日27日に伊勢志摩サミット2016が開催されることが決定しました。その後毎日のようにテレビ、新聞等で報道されております。スローガンは「三重県ならではの“おもてなし”で世界の皆様をお迎えします」です。三重県が世界的に脚光を浴びることになります。県では2013年の伊勢神宮の遷宮に続いて大きなイベント開催になります。ふるさとに思いを馳せていただければと思います。

スポーツでの卒業生の活躍を報告します。世界陸上北京大会に衛藤昂さんが走り高跳び競技に出場しました。決勝進出は果たせませんでしたでしたが素晴らしい活躍でした。来年はリオデジャネイロオリンピックが開かれますので出場を目指して頑張ってもらいたいと思います。

同窓会員の皆様には今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を祈念してご挨拶といたします。

## 高専祭特別展示 —石岡繁雄元高専物理教官の業績を讃えて—

元鈴鹿高専哲学教授 奥 貞二 (45C卒)

今年は2つの新しい企画を計画しています。1つは、元第三青峰寮、現在のイノベーション交流プラザ1Fの、50周年記念ギャラリーのコーナーに、石岡先生の偉業を讃える品々を永らく保存展示するコーナーを設ける計画です。そこには、在職当時を偲ぶ数々、物理の教科書をはじめ、合併教室横でのナイロンザイル公開実験の様子の写真、ナイロンザイルの一部等を陳列しようと計画中です。2つ目は、今年の高専祭(10月10-11日)に、特別展示として、ナイロンザイル事件に関わる資料、井上靖作「氷壁」の素材となった関係の資料、鈴鹿高専在職当時に関係する資料等を一教室に陳列し、公開する。そして、一般市民の方々に広く先生の足跡と偉業を伝える予定です。どうぞご期待下さい。

今となつては石岡繁雄先生といっても知らない人が多いのではないかとと思われるので、少し紹介したいと思います。石岡先生は、物理の教官として、昭和46年

から58年定年退職されるまで12年間鈴鹿高専で教鞭を取られました。先生から直接物理を習った学生も数多くいることでしょう。先生は知られた登山家でした、昭和30年1月2日、自らが会長である鈴鹿の登山グループ「岩稜会」のメンバーが、前穂高岳東壁を登攀中に岩角でナイロンザイルが簡単に切れ、先生の弟(若山五朗)さんが転落死されました。これがナイロンザイル事件の始まりです。ザイルメーカー側は、転落の原因を未熟な登山技術の所為としていた。しかし石岡先生はナイロンザイルの岩角欠陥を証明



し、高専在職中に本校での公開実験で岩角欠陥を一般の人々に見学してもらい、同時に自ら開発した墜落防止装置を示しました。これがインパクトとなって、遂に国は世界で初めてというザイルの安全基準の制定を行いました。石岡先生の事故防止の取り組みは、その後の日本における製造物責任(PL)法の先駆けとして、高く評価を受けています。

私は、高専に赴任して、先生とは二年間だけ教養の同僚教官として重なりました。第一印象は、<正義と闘う人>そこにソクラテスを見ている思いがしました。

## 卒業生便り

### 第1回鈴鹿高専OB親睦ゴルフコンペを終えて

7期 伊藤 栄一(48E卒)

平成27年5月30日(土)に第1回大会を三重県津市の鈴鹿カントリークラブで開催しました。きっかけは、平成25年青峰同窓会会報でご報告させていただいた「加藤先生を囲む会」でのOBの出会いにあります。(ただ大変悲しいことに今年1月に加藤先生は、急逝されました。)その際に「今後のOB会は…」から最後は「趣味のゴルフ」の話となり「鈴鹿高専OBの親睦ゴルフ大会」を是非やろうと言うことになりました。

発起人は言い出しっぺの1期生の星野・太田見・小手川先輩と7期の私(伊藤栄)の4名。その後、鈴鹿高専テクノプラザの理事の皆さん(1期生川路・大西・6期生加藤友治の各先輩に後輩の9期生川口・藤川両君)の5名を勝手に幹事に指名し参加者を募りました。その結果41名のOBが参加してくれることになりましたが、幹事の太田先輩は、朝会場に向かわれる際に交通

昭和57年NHK人生読本で放送された先生の言葉を引用します。ナイロンザイルを買い、指導者のザイル技術の知識のなさが起こさせた事故とする運動具店の主人に対しての説明です。「しかしながら、それについて何らの反論もしていません。もしその方が私に味方すれば、恐らく商売は立ち行かなくなるからであります。私がかいのは、自由裁量の出来る人、地位の高い人たちの不正な行為なのです。いずれにしてもこの社会は、地位の高い人、影響力のある人が正しい道を歩んでいただかなくては、良くならないと思いました」

事故に遭遇され棄権されたためコンペは40名で実施。(参加者一覧を参照)。

平成6年卒業(28期生)の壮年大橋さんから昭和42年卒業(1期生)の高齢者まで歳の差27歳でスタート。予想通り、初対面の年次も離れた先輩・後輩で面識もなく朝のうちはよそ行きの雰囲気…。ところが、これも予想通り茶店やレストランで恩師の話やクラブ活動の話で打ち解け、表彰式の中盤では罵声の飛び交う状態になり、同窓のよしみからか和気あいあいに…良いものです。

気になるスコアは70台・1名、80台・2名、90台・12名、100~108・15名、109以上15名でした。成績は個人の尊厳に関わりますので掲載は控えさせていただきますが、優勝者は9期生の川口宗弘(50H)君。鈴鹿CCのメンバーで、今回のエントリーにご尽力を





いただいた(その貢献に神様のご褒美?)。ベストグロス賞はなんと69歳の1期生太田見雅彦先輩で、スコアは79。1期生のパワーはいつまでもスゴイ! 敬服です。表彰式では「ベストグロスの挨拶は無いのか」の一声に優勝者も思わず「先輩どうぞ」で先に栄えある挨拶をされた。太田見さん曰く…決して後輩を差し置いてのパワハラではないので読者の皆さん誤解をなさらない様に…自己紹介で1番先に呼ばれたのでついでのことではしゃべてしまいましたと。

参加者からは1年に1回開催しようと言う要望が多

### 第1回鈴鹿高専OBゴルフコンペ

2015年5月30日 鈴鹿カンツリークラブ

氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年
小島 肇	42M	石塚 進	44C	堀部 尚之	47C	川口 宗弘	50M	長坂 伸司	51C
長谷川 俊男	42M	加藤 友治	47C	中谷 孝	47M	林 司	50C	森川 昌由	51C
大田見 雅彦	42E	北口 利実	47C	伊藤 栄一	48E	西川 幸嗣	50H	小野 勝義	52M
川路 繁市	42E	志水 秀成	47C	伊藤 真	48E	長谷川 仁	50H	室 真市	53M
小手川 智	42C	杉森 正秋	47C	川原 康夫	48E	藤川 勝彦	50H	寺本 正和	54M
星野 克明	42C	田中 高好	47C	中野 郁雄	48C	松見 秀敏	50H	打田 武	55C
中井 一久雄	44M	野崎 博史	47C	松尾 文夫	48C	小松 和義	51C	三林 浩	57H
橋本 正敏	44E	浜口 精隆	47C	井坂 宗晴	49C	近藤 幸生	51C	大橋 高光	h06E

数ありましたので、発起人・幹事の皆さんとご相談して進めてまいります。鈴鹿CCを貸し切る意気込みで…!!

何はともあれ大盛況であったことを大変嬉しく有難く感謝して報告させていただきます。



## ラグビー部懇親会

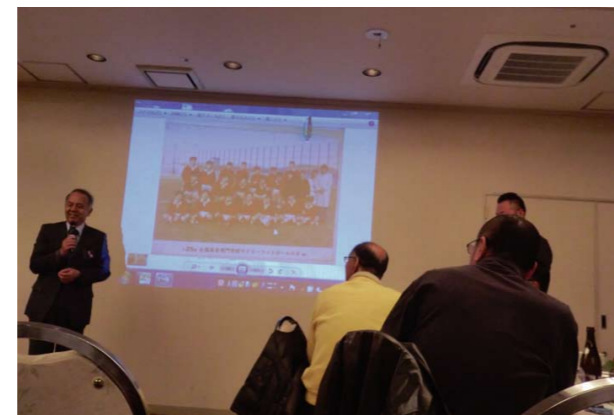
生物応用化学科 ラグビー部部長 船越 邦夫

去る平成27年3月28日土曜日、ホテルグリーンパーク鈴鹿にてラグビー部OB・OG懇親会が開催された。本会は平成27年3月に定年を迎えられた北村登先生の退官のお祝いを兼ねており、水谷氏(S62E)、草深氏(H06M)、進士氏(H07E)、河上氏(H14E)、青山氏(H14M)を発起人として前年11月頃より準備が進められてきました。北村先生は昭和56年4月に当時の電気工学科へ着任されてから平成27年3月までの34年間、部長や顧問としてラグビー部の発展にご尽力されてきました。当日はOBやマネージャーを始め、歴代の顧問の先生、コーチなど60余名が出席された。

懇親会は青山氏を司会に、発起人代表である水谷氏より開会のご挨拶があり、下野幸助(H09E)三重県会議員よりご祝辞を頂き、坂谷氏(S56E)の音頭で乾杯が行われた。その後水谷氏の進行のもとラグビー部の戦績報告や思い出話としてOB・OGの方々より寄せられた昔の写真やスクリーンに投影しながら、部員や写真に掲載されていた方より当時のラグビー部の様子や写真にまつわるエピソードについてお話を頂いた。その中で、平成6年度に東海地区高専大会にて優勝をしながら選手数の関係で全国大会に出場できなかったエ

ピソードとなった折には、北村先生がマイクを取られて、当時断腸の思いで全国大会の欠場を決断し部員に伝え、また試合当日会場までお詫びに伺った、とお話を伺い、先生のラグビー部に対する思いに対し出席者全員感激致しました。最後には、ご出席した歴代の主将が一同に壇上に登り、一言ずつ当時の思い出を語って頂いた。

また会場の一角には、昭和39年のラグビー同好会創設から今日までの高専大会の成績といったラグビー部の歴史や歴代の部長・主将等の一覧が書かれたポスターが掲載され、出席された方々がポスターの前に



集まり、当時の思い出を語り合ったり、また空欄となっていた箇所に戦績やお名前を記入されていた。

懇親会の終盤には、平成12年から平成25年度までラグビー部の部長や顧問を務められた奥田先生より北村先生のご略歴をご紹介頂き、最後に北村先生よりご挨拶を頂いた。その後北村先生へラグビーボールに出席者の感謝の思いを記した寄せ書きと花束を贈呈した。



そして参加者全員で集合写真を撮り、盛会のうちに閉会した。

この度、OB・OG懇親会を開催するに当たり多くのラグビー部OB・OGへご連絡が行き渡らなかったことをこの場を借りてお詫び申し上げ、関係各位には是非ともsnet\_rugby@yahoo.co.jpへご連絡頂ければと思います。

## 30年目の同窓会

佐川 浩彦 (61E卒)

5月3日(日)、四日市市の旬魚酒庵 魚初にて、61E卒の同窓会が開催されました。卒業後30年が経過していたこともあり、連絡がとれなかった卒業生も多かったようですが、東は東京都、神奈川県、西は岡山県から参加した人を含めて、61E卒業生37名のうち、13名が30年振りに一堂に会しました。同窓会は、30年振りの再会を祝した幹事 筒井君の乾杯でスタートし、卒業後の30年間のそれぞれの状況を報告し合いました。参加者の中には、それまでも思わぬところで出会ったことがあった人同士も何人かいたようですが、ほとんどが30年振りの再会でした。さすがに30年ともなると、印象がすっかり変わってしまった人もいて、最初はお互いに少々、戸惑い(?)があったものの、海鮮料理に舌鼓を打ちつつ、会が進む中、皆、30年前に戻ったような感覚で、会話が弾みました。特に、岩間君の終始軽快なトークのおかげもあり、一次会は大いに盛り上がり、3時間はあっという間に終了しました。

二次会は、8名が四日市駅前のカラオケ屋に場を移し、わさび入りのロシアンたこ焼きなどを食べつつ、卒業時である1985~86年頃の歌をみんなで歌って盛り上がりました。ここでは、若林君がカラオケ好きと



上列左から、上川、南川、佐川、川村(英)、式井、岩出(旧姓岩間)、辻、上野  
下列左から、鈴木、若林、山中、永井、前納(旧姓筒井)

いう意外な一面を見せ、歌を歌いまくっていました。二次会は2時間ほど終了し、30年目にして初めての61E卒同窓会は幕を閉じました。

今回、このような機会を設けていただいた発起人の南川君、幹事の筒井君には心から感謝の意を表したいと思います。これを機に、今後は数年に一度のゴルフや同窓会、また定年後には海外旅行等を計画していく予定とのことです。今回、残念ながら連絡が届かなかった61E卒の方々も、この記事を読まれたら、幹事の筒井君(maeno.tg@om.asahi-kasei.co.jp)に是非ご連絡をお願いします。



## 平成17年電気電子工学科クラス会

2015年5月3日(日・祝)、近鉄四日市駅近くのcafe neuf(カフェヌフ)において、鈴鹿高専卒業後5年を記念してh17E同窓会を開催しました。卒業から5年が経過しているにもかかわらず、同窓生20名に加えて恩師10名が参加してくださいました。

1年次の担任であった川本先生より開会挨拶をいただいたあと、各テーブルにおいて、学生時代の思い出話や現在取り組んでいる仕事などの話に花を咲かせました。中には、氏名と学籍番号をセットで覚えていた者もあり、5年間の高専時代がそれぞれにとっていかに濃密な時間であったかを感じました。また会中に2014年度に退職された北村先生と奥野先生に感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しました。同窓生の中には、海外の生産拠点に転勤経験が複数ある者や経営学を修めるため首都圏のビジネススクールに通う者もあり、それぞれのフィールドにおける話題はどれだけ時間があっても尽きません。5年次の学科長であった近藤先生

原 健 (h22E卒)



に締め挨拶をいただいた後も話し足りず、一部は翌朝の5次会まで参加しておりました。

今回は5年後、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に開催予定です。仕事面では働き盛りの世代に突入し、家庭内でも今とは異なる役割を担っている人も多いことでしょう。和気藹々と話し合い、また次の5年間を生き生きと過ごす活力にしたいと思います。

「鈴風」135号より転載

## 定年退職を迎えて



教養教育学科  
小倉 正昭

### 定年退職を迎えて

年月が経つのも早いもので、今年度3月には定年退職を迎えます。

昭和54年に三重県の高専教師になり、3年間勤めて、鈴鹿高専に昭和57年に赴任して、33年間お世話になりました。教員生活は36年間になります。

自分の教員生活を振り返ってみると、青春時代も、壮年時代も、老年時代もあり、色々な経験をしてきたということです。

鈴鹿高専もこの33年間に大きく変化しました。その要点を以下に書きます。

- ①全寮制が撤廃され任意寮制度に変化しました。通学したい学生は自由になれました。寮の改築や食事の改善もされ、快適な寮生活になり、いじめ問題も激減したように思います。
- ②女子学生の比率が急増しました。最初の頃は男性一色で、工業化学科に数人の女子がいるだけでした。ところが1986年の男女雇用均等法実施前後か

ら、徐々に女子学生の比率が増えて、電子情報工学科が新設されて急増しました。現在は一学年50-60人、つまり4人に一人が女子学生になりました。それに伴い男子が行く高専から男女関係なく行く普通の学校に高専が変化して、学校全体が色彩豊かになったような感じがします。

- ③大学進学率が伸びました。最初は殆どの学生が就職を希望しており、大学編入生は数人でした。しかし経済バブル時代より高専に大学編入の門戸が拡大されてより大学編入を希望して高専に入学する学生が急増したように思います。今や専攻科を含めて、100人前後の学生が大学編入を希望しています。高専も最終教育機関では無く、大学編入の窓口機関に半ば変化してきました。高度な技術教育レベルに到達しなければ、現在の日本の主要企業では通用しないということです。

ところでこのように高専の風景が変化しても、技術者養成の高等教育機関であることは全く変化していません。従って歴史担当の教育者・研究者として、何時も心がけてきたことは、創造力豊かで独創性に富む技術者や研究者を育成したいと思い、自分で研

究した興味深い内容を講義し、講義した内容を論文に纏めて学会に発表してきました。

最後にお別れの挨拶として、歴史教師として33年間の鈴鹿高専での経験を踏まえて、一言述べておきたいと思います。

日本は技術立国です。優秀な技術製品を製造して諸外国に販売して生活する貿易依存型国家です。従って世界に先駆けた優秀な技術商品を開発しなければ、日本経済は衰退するのです。現在の日本は危機状態に直面しています。アジア諸外国は日本をモデルにして懸命に努力して技術を向上させています。その結果、日本製品と同様な良質な商品を開発して、日本とアジア諸国の技術レベルが同等に成って来た

のです。日本の製品が諸外国で売れなくなって来たのです。

学生諸君は、技術立国日本の未来を背負う重要な社会的役割を担っています。日本が何時までも平和で繁栄するには、優秀な技術者や研究者が多く育成されるか否かに係っています。従って学生諸君は戦後直後の貧しい日本を想起して、豊かさの中に貧しさを忘れずに、常にハングリー精神を持って、日夜勉学に励んで、優秀な科学研究者や創造力豊かな技術者に大成されることを心より念願しています。

33年間もの長い間、拙い歴史の授業を聴講して下さった鈴鹿高専の学生諸君に感謝申し上げます。



機械工学科  
埴 克己

### 定年退職を迎えて

高専が独立行政法人化された平成16年4月に前の職場の豊橋技術科学大学を退職し、本校にお世話になって早いもので11年を過ごさせて頂きました。在任中は教職員の皆様に支えられ、また学生の皆さんからは元気をもらって、高専での充実した教員生活を送ることが出来て、心から感謝しています。

赴任早々に5年生の学級担任を担当し、学科の先生方から度ある毎にアドバイスを仰ぎながら、なんとか担任業務を全う出来たことがつい先日のようです。今では教室に画像掲示装置が設置されて学生への伝達には重宝していますが、クラスを担当して連絡事項の多さには驚きました。また、JABEEに関して既に試験答案の保管や評価方法等の仕方が決められ、実施段階にあったことも驚きの一つでした。

赴任して数年後からは、工学実験や機械設計製図以外に材料力学をはじめ応用数学や工業英語も含めて、積極的に多くの科目を担当させて頂きました。学生の皆さんと接し学ぶことが多く、励みにもなり感謝しています。大学での専門科目の授業と比較して、進度はゆっくりですが履修の内容はほとんど同じで、レベルも同じくして丁寧に教えることが出来たことを大変嬉しく思っています。

クラブ活動は自動車部(平成23年度からソーラーカープロジェクトと一緒に、エコカープロジェクトに改編)を担当しました。赴任した2か月後に

は、鈴鹿サーキットで開催の低燃費競技大会「Honda エコマイレージチャレンジ」に出場して、試合前の走行コースのメインストレートに立ったときには、鈴鹿に赴任したことを強く実感しました。事務的なサポートと試合に同伴して学生達の活躍を見守ることしか出来ませんでした。技術的サポートについては、教育研究支援室の皆様大変お世話になりました。当初はエンジンを搭載したアルミフレームにプラスチック板のカウルを装着した車両で、燃費は260 km/lと、参加チームの中では中位レベルでした。今では炭素繊維複合材料(CFRP)でカウルを製作し、さらにガソリンを電氣的に制御してエンジンに送り込む燃料噴射装置(インジェクション方式)の採用に挑戦して、平坦なコースで、900~1,000km/lと大幅に燃費を向上させ、入賞出来るようになりました。ソーラーカーレースをはじめ、電気自動車競技を含めて年間4~5回の大会に出場して好成绩を収めるようになり、性能向上に取り組む学生達の地道な努力に感服する次第です。一方、極めて残念なことに、車体製作の際の硬化剤の配合ミスから生じた部室の火災で、競技車両等を失う大きな損害を出してしまったことを、大変申し訳なく思っています。焼失後は1日も早くもとの活動が出来るように取り組みましたが、同じプレハブ建屋に部室があった写真部や美術部の皆様には、長期間にわたって活動に不自由をおかけし、お詫びいたします。

在職11年間でしたが、専攻科主事補を1年、教務主事補を2年、学科長を2年、産学連携活動や安全衛生に係る研究主事の業務を4年、地域交流等の渉外担当主事の業務を1年と、長きにわたって校務に



携わらせて頂きました。パテントコンテスト等の知財教育の取組み、地域の子供達への理科・科学教育活動の取組みである「みえサイエンスネットワーク」の企画・運用や、企業協力会である「鈴鹿高専テクノプラザ」の立ち上げと運用に、忙しい日々を過ご

しましたが、皆様のご協力を得て携わることが出来て、深く感謝いたします。

最後に、皆様のご活躍と鈴鹿高専の更なる発展をお祈り申し上げて、退職のご挨拶とさせていただきます。

**定年を迎えるにあたり思うこと**



電気電子工学科  
北村 登

定年となるこの3月末に「四日市公害と環境未来館」が開館される予定です。日本三(四)大公害といわれている水俣病(熊本県、新潟県)、イタイイタイ病(富山県)、四日市喘息(三重県)が提訴されるまで問題化したのが1960年代末のことで、戦後の復興期・高度経済

成長期の50・60年代の負の面が顕在化した大きな社会問題となりました。その時代・社会の要請として高度経済成長を支える人材を育てることを目的として「高専」が設立された時期でもあります。そしてその目的は達成され、変化しつつ次の世代の人材を育てており、育てていくことになると思います。

私は1951年生まれですので、一世代を30年として大きく分けると高度経済成長の一時期を高専の学生として過ごし、次の一世代を教員として高専とともに歩んできたこととなります。高専教員としての約30年間では高度経済成長は終わりを迎え、新しい時代への過渡期でした。そのため高専も社会の変化に対応すべく、育てるべき人材などその教育目標など変えていかなければならないことも多くありました。そして現在、次に控えている新しい世代を迎えようとしています。今、社会で起こっている様々なこと

はその変化の表れでしょう。世界の各地でテロが頻発しています。年明けにはフランスでのテロに対して、各国の首脳を含めフランス全土で370万人もの人が参加したデモが行われました。このことはこれまでの社会の構造とは全く異なった社会になっていくことの象徴ではないかと感じます。最近話題になっているトマ・ピケティ著「21世紀の資本」やアンガス・ディートン著「大脱出」も、この社会の変化を明確に指摘していることで多くの人に読まれているのだと思います。

それでは「高専はどのように対応していくべきか」ですが、教育機関としての基本は社会が変わろうと変える必要はないと私は考えます。社会の変化に対応でき、社会で自分の能力を活かせる人材を育てるのが高等教育機関の唯一の目標だと考えます。社会の動向を間違いなく読み解き、社会のあり方を自分なりに考えていくことができる人を育てることだと思えます。

今教育が大きく変わろうとしています、変えなければならないことは変える必要がありますが、教育は国家百年の大計ですから目先のことで変えてしまっては取り返しのつかないこととなります。これからの30年、また次の30年の鈴鹿高専を作っていくのは次の世代の学生と教職員の方々です、皆さんの腰を落ちつけた議論を基にした新しい鈴鹿高専となることを願っています。



電気電子工学科  
奥野 正明

**定年退職を迎えて**

昭和46年4月、電気工学科(現電気電子工学科)に文部技官として採用され、その後平成5年に教員に配置替えになり、44年間鈴鹿高専にお世話になりました。若い助手を作り、育てるといった当時の学校(科)の恩恵を受け、私を含め数名の若い技官が仕事を早く終え、近隣の夜間大学へ

の通学を許されていました。当時の校内の様子として、教官はテスト、指導書などをガリ版、鉄筆で作成、各学科にはそろばん、計算尺が備品で配布されていました。主な学校行事の一つとして、夏には水泳訓練(遠泳)が白子の浜で行われ、冬には校外マラソン大会がありました。事務部にはタイピスト、電話交換手、運転手、守衛がいて、給料日には印鑑を持って会計課に行き、現金の入った薄い封筒を受け取っていました。今、こうして改めて当時を振り返ると、浦島太郎も目を見張るような44年間です。

「奥野君、一週間以上かかって作った回路の結果が、スイッチを入れた瞬間にわかる。電気はおもしろいと思いませんか？」

夜半、ハンダ付けをしていた、採用時から師事していた小林先生(現材料工学科、小林先生の父上)の言葉で、赴任して3、4年経った頃だと記憶しています。先生は私のような若造にもいつも丁寧な言葉、真摯な態度で話してくれました。(ややハスキーな声で)。そのころの研究は主に電動機(モーター)の速度制御、サーボモータのステップ駆動などで、実験に必要な駆動、制御回路などはほとんどが自家製作でした。そしてその結果を先生と二人、手書きの模造紙の発表原稿(スライドはもう少し後)を持って全国電気学会、東海、関西支部の学会に行ったのを昨日のこのように覚えています。

高専生活の後半、充実した教員生活をささえてくれたのが学生諸君との毎日の出会いでした。部活のバドミントンを通じて、多くの学生と過ごした第二体育館は重要なパワースポットになり、今でも付き合いをしている多くの卒業生は大事な財産となりました。また、3、4、5年と担任をした「H20E」の皆



さんからも多くのパワーをもらいました。クラス全員で行った一泊の飛騨路の卒業旅行など、若い人からエネルギーをもらう立場の教員にとって、最高の思い出となりました。今こうして振り返ると、楽しく過ごした時間のほうが圧倒的に長く、幸せな教員生活を過ごさせていただきました。

最後に長い間お世話になった学校長はじめ、多くの教職員の皆様、多くの卒業生の皆様、ありがとうございました。特に体調に不安があるとき、いろいろと気遣っていただいた電気電子工学科の皆様には心より感謝申し上げます。終わりに鈴鹿高専の発展と皆様のご活躍を祈念し、退職の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

**転出のご挨拶**



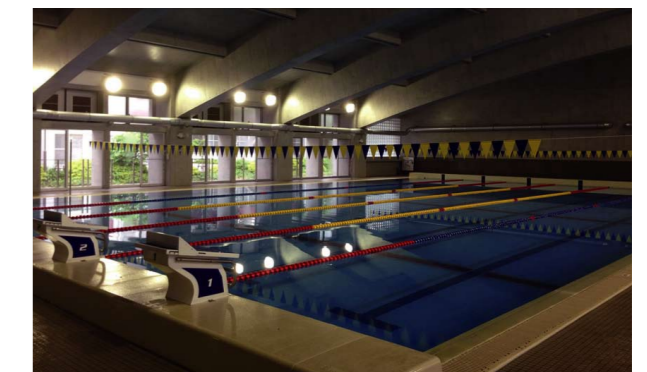
九州共立大学  
森 誠護

青峰同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のことと存じます。平成27年4月より九州共立大学スポーツ学部に着任致しました。鈴鹿高専では平成20年4月より7年間お世話になりました。鈴鹿高専在職中には多くの皆様にご支援を頂きました。この場をお借り致しまして、深く御礼申し上げます。

現在、勤務している九州共立大学は福岡県北九州市八幡西区にあります。本校はスポーツ学部と経済学部の2学部があります。非常にスポーツが盛んで、硬式野球、陸上、レスリング、体操などは全国的にも強豪校の1つです。私は水泳が専門ですが、こちらでも水泳部の部長兼監督をしています。早く水泳部も全国の強豪校と呼ばれるように日々練習に励んでいます。授

業では、水泳、水泳指導法、コーチング各論、スポーツ学演習入門、スポーツ学演習(3年ゼミ)、卒業研究(4年生ゼミ)などの授業を担当しています。鈴鹿高専では保健体育を担当していましたので、より専門的な授業を担当することになりました。

本学部の学生は、卒業後はスポーツ関係の仕事に就きます。学科はスポーツ学科のみですが、2年生からはスポーツ教育、コーチング、トレーナー、健康フィ





ットネスの4コースに分かれます。体育教員を目指す者、各種専門のコーチを目指す者、スポーツトレーナーを目指す者、フィットネスインストラクターを目指

す者など様々です。三重県からは遠く離れておりますが、皆様のご活躍と鈴鹿高専のご発展を心より祈念致しております。



■大津 孝佳：沼津高専 電気電子工学科へ異動

## 新任教員挨拶



電気電子工学科  
横山 春喜

### 着任のご挨拶

本年度から電気電子工学の教授として着任しました横山春喜です。出身は高知県で、着任前は日本電信電話株式会社の研究所で、26年間、光通信や無線通信で用いられるデバイスの研究開発に従事してきました。

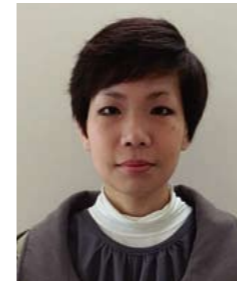
長年、企業において研究開発を行って来ましたが、これには大学時代の体験が大きく関わっています。大学ではプラズマCVDを用いた窒化ホウ素(BN)薄膜の合成を行っていました。ダイヤモンドに似た立方晶BNはダイヤモンドに次ぐ硬さと高い熱的安定性を持っているので、当時、研削器具のコーティング材料として期待されていました。しかしながら、通常合成できるのはグラファイトに似た柔らかい六方晶BNで、立方晶BNの合成には高温高圧の作製条件が必要でした。立方晶BNの合成に向けて、自作したプラズマCVD装置を用いて、毎日深夜まで実験を行い、地道にデータを取りながら少しずつ条件を最適化していき、初めて立方晶の薄膜を合成できた時の感動は今でも忘れることができません。この時、心の底から研究は面白いと感じ、また、世の中に役立つものを世に出していきたいと強く思うようになり、研究者になることを決めました。

大学卒業後は日本電信電話株式会社に就職し、研究者としての生活をスタートさせました。これまでに様々な技術の開発に従事し、この間に研究したテーマで

博士号も取得することができました。研究開発は希望していた仕事であり、それ自体は満足しておりましたが、研究所の仕事には、若い研究者の指導もあります。また、大学で非常勤講師として教壇に立つ機会等もあり、年月が経つにつれ少しずつ教育についても関心を持つようになっていました。こういった中、昨年鈴鹿高専の公募を目にし、一貫教育により、創造性豊かな実践的技術者になる人材を育てるという教育方針に魅力を感じ、応募させて頂きました。

企業間競争が激化する中、最近の現場では、市場動向を分析・調査し、顧客ニーズにあった技術・商品を短時間で効率的に開発するという非常に高度な能力が技術者に求められるようになってきています。当たり前のように聞こえるかもしれませんが、実際にこれを達成することは簡単ではなく、いわゆる「死の谷」を超えて開発から実用化へ移行する技術や商品はごく一握りであるのが現実です。私自身はこれまで化合物半導体を用いた電子・光デバイスの研究開発業務に携わり、幸運にもこの間に開発した技術を幾つか実用化することができました。また、開発技術を用いてグループ会社で始めた新規ビジネス事業の立ち上げにも参加し、研究開発から実用化までの一貫した実務を経験しています。教育者としては経験不足の面もありますが、このような経験を活かして、一人でも多くの優れた技術者を世に出せるように精一杯努力していきたいと考えていますので、これからよろしく願い致します。

「鈴風」136号より転載



教養教育科  
藤野 月子

### 新任のご挨拶

鈴鹿高専の皆様、改めましてこんにちは。私は今年度4月より新たに赴任致しました、教養教育科の藤野月子と申します。担当科目は世界史Ⅰ・Ⅱ、及び、歴史学概論Ⅰ・Ⅱです。これまでは大学で非常勤講師として大学生に東洋史を講義していましたが、やはり高専生に授業するとなると異なるところも多いので時には戸惑うこともあります。焦らずに少しずつ慣らしていこうと思っています。私にとっても本当に毎日が勉強です。一年生の担任補佐もしています。

この機会に少し私自身のことをお話しさせて頂きます。私は生まれも育ちも福岡です。ですのでいわゆる「博多弁」を話してきました。三重県の言葉とはかなりイントネーションが異なりますが、だいぶ慣れてきたなと感じています。

大学時代には東洋史を専攻・研究してきました。東洋史を学ぶきっかけは例に漏れず「三国志」が大好きだったからです。小学生の頃に誕生日プレゼントとして父から横山光輝さんの「三国志」全60巻をもらったことは今でも忘れられません。結局、大学では研究テーマに「三国志」を選ぶことはありませんでしたが、やはり、何事も好きだという気持ちを一番大切に持ち続け、そ



電気電子工学科  
西村 高志

### 着任のご挨拶(自己紹介)

平成27年4月に電気電子工学科に赴任しました西村高志と申します。どうぞ宜しくお願い致します。また、卒業生の皆様におかれましてはご健闘、ご活躍を心よりお喜び申し上げます。

これまで私は、普通高校理数科を卒業後、大学は電気電子工学科に入学し、大学院では材料科学を専攻し、学位取得後は中小企業で装置開発を4年間行ってきました。大学院ではプローブ顕微鏡を、企業では電子顕微鏡の開発を行って来ましたが、一貫してナノスケールの表面現象に興味があり高専でも表面科学分野の研究を行っています。表面科学分野の実験研究は装置に依存する部分が多いので、大型の装置を必要とする実験は大学で行い、高専では低予算で実験が可能な電気化学セルや高真空装置の開発を進めています。

4月以降の業務として、専攻科2年生と電気電子工

「鈴風」136号より転載  
れに向かって努力することが大切だなと感じます。私は幸いにも素晴らしい指導教官に恵まれたこともあり、論文の執筆などで苦勞もしましたが、お陰様で博士号を取得することが出来ました。研究テーマは中国の唐代を中心とした外交政策、中でも、皇帝の娘(公主)が近隣諸国の君長に嫁ぐ、「和蕃公主の降嫁」と呼ばれるものについて取り組んでいます。運の良いことに本を出版することが出来ました。もし興味をお持ちの方がおられましたら、藤野月子著『王昭君から文成公主へ—中国古代の国際結婚—』(九州大学出版会 2012年)をご覧下さいませ。また、学生時代には一年間だけですが、上海へ留学しました。初めての一人暮らしが海外ということもあり、最初はとても不安でしたが、最終的には「帰りたくない! 帰りたくない!」を連呼する毎日となりました。時間にも余裕のある学生時代にぜひとも留学することをお勧めします。何よりたくさんの海外の友人が出来ますし、タフさが身に付くのではないかと思います。

得意なスポーツは水泳です。0歳の頃からプールに浸かっていました。クラブ活動ではテニス部の部長補佐を担当することとなりましたが、ほぼ初心者です。テニス部の皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、何とか頑張っていきたいと思っています。

どうぞ今後とも宜しく願い致します。

学科3年生の座学、4年生と5年生の学生実験、研究室には5年生と専攻科1年生の二名が配属され研究指導を行っています。また、バドミントン部やロボコンプロジェクトにも参加させて頂きまして学生の引率などを通して若い学生のエネルギーを感じています。高専は柔軟な若い世代へ教育を行う重要な教育機関だと思っています。私自身の教育が多くの学生へ影響する点に責任を感じますが、実践的な技術者を育成できるように先輩の先生方を参考に工夫していく所存です。

自己紹介用に使わせて頂いた写真は昨年、妻と宇宙博へ行った時のもので、後ろのエンジンは墜落したシャトルより回収したエンジンの一部だそうです。シャトル製造の多くの工程でたった1つの配管設計ミスが墜落の主原因であったことは、泥臭い「ものづくり」の良い例だと思います。私自身も企業技術者として装置を設計する際、そのような強い緊張感を持って仕事をしてきました。学生へもその思いを伝えられたらと思います。





教養教育科  
岩本 仁志

## 私と寮

はじめまして、4月より教養教育科(理科)に着任いたしました岩本です。3月までは和歌山県御坊市にある和歌山高専に勤務しておりました。この度人事交流制度により1年間ではありますが、お世話になりました。どうぞよろしくお願

いいたします。

私が、寮というものに初めてお世話になったのは、社会人1年目で当時就職した会社の寮でした。入社当時は、6畳一間の部屋に2人に入ったのを覚えています。入社3ヶ月は二人部屋でした。会社の寮は、門限があるくらい(それでも連絡すれば遅くなくても可でした)で、特に決まりなんてものはありませんでした。新入社員の同期で毎晩集まり、飲んでいたのを思い出します。入社1年目は研修期間で、研修先(勤務地)が変わるたびに寮を転々としていました。大阪の堺市から、栃木の小山市、千葉市、また小山市、そして滋賀県の彦根市と実に1年で4回も引越しを行っていました。当時、荷物が少なかったからこんなこともできたんだと改めて思いました。

和歌山高専にも寮があります。1号館から8号館まで計8棟あり、総定員は約600名です。一番新しいものは、昨年夏に完成した8号館(定員100名)です。全国の高専でも2~3番目に大きい寮です。当然宿直もあります。

先日、鈴鹿高専に来て、初めての宿直がありました。内心「同じ高専の宿直なんだから。」と思い宿直にあたりました。おおまかな仕事の流れは理解していたものの、いざ実際の宿直となると細かいことでわからない



電気電子工学科  
犬塚 勝美

## 鈴鹿高専に赴任して

はじめまして。犬塚勝美(いぬづかかつみ)と申します。技科大、高専間人事交流制度を利用してこの鈴鹿高専にお世話になります。よろしくお願

いいたします。出身は愛知県西尾市一色町の出身で、うなぎで有名なところ

です。「愛知県産のうなぎ」と言えばここです。値段は少々高いですが、お買い上げいただければ幸いです。中学卒業後、豊田高専に進学し、

「鈴風」136号より転載

ことが多く、指導寮生や週番の方々に教えてもらいながら、何とか終わることができました。寮生の皆様、ありがとうございました。

ここで、私の研究の一端を紹介します。私は、「分子シミュレーション」という一風変わった事を行っています。今日、一年間で何千という新しい分子が合成され、発表されています。それら新しい分子の殆どは今までにない機能性を持った新規分子です。そして、それらの分子を合成するにあたり、既知のデータを基に新しい機能性を発現させるための分子設計を行い、その後合成、評価の繰り返しにより新規化合物を作ります。実際には、合成、評価に随分の時間とコストがかかります。この、分子設計後の合成、評価をシミュレーションに置き換え、狙い通りの機能性が発現されるのかを検証することにより、応分の時間やコストに短縮をはかり、トータルの新規機能性分子の開発期間を短縮し、短期間で狙い通りの分子を合成するサポートに繋がればという趣旨で研究を行っています。

話は、また寮にもどりますが、寮生のみなさん、皆さんの年代と一緒に過ごした仲間(寮生)は、高専卒業後も一生の付き合いになる友人となることでしょう。(昔の言い方で、「同じ釜の飯を食った仲間)今しかできないこと、今だからできることを見つけ、寮生活を楽しんで下さい。

最後になりますが、上述したように私が鈴鹿でみなさんとお会いできるのは今年1年間だけです。私もこの一年いろいろ勉強し、得たことを和歌山に持ち帰りたいと思います。そのためには、皆さんとのふれあいも持って行けたらと思っています。どうぞよろしくお願

いいたします。

「鈴風」136号より転載

勉強やクラブ活動+αと、それなりに充実した学生時代を過ごしました。その後、東京農工大学に編入、名古屋大学の大学院に進学して、今度は教員として豊田高専電気工学科(現、電気・電子システム工学科)に赴任してかれこれ20年が過ぎました。今回交流先に鈴鹿高専を選んだ理由は、私の中では東海地区の高専の中で未知の高専であったこと、自宅から通勤できること、クラブ活動が強くその秘密が知りたかったこと、が挙げられます。

私の専門分野は計測制御工学です。大学院では磁気

センサを利用した誘導電動機のトルク制御に関する研究に従事しました。研究業績はまったくありませんのでこれでやめておきます。

趣味としては学生時代に自転車旅行をしていました。寝袋と輪行袋(ばらした自転車を入れる袋)をもって2週間くらい日本国内を回っていました。お金がないので、無人駅の駅舎で寝たりして旅費を節約していました。そのおかげで毎日風呂に入らなくても大丈夫になりました。さすがにたまにはユースホステルなどの安宿に泊まり、そこで一緒になった人と友達になり、いまも年賀状のやりとりをしている人もいます。海外旅行は一度だけですがアメリカに行ったことがあります。そのときはシカゴからポートランドまで列車(アムトラック)に乗って、まる二日かけて移動しました。

もう一つは学生時代から現在も続けている陸上競技



教養教育科  
宝来 毅

## 着任のご挨拶

みなさん、こんにちは。本年4月に非常勤講師として、そして5月より教養教育科の助教に着任致しました宝来毅です。前は公立小学校の教諭として地元の奈良で教鞭を執らせて頂いており、高専で教鞭を執らせて頂くことは私にとって初めてのこ

とであります。ですので、着任して間もない時期は、教室1つにしてもどこにあるかわからず、慌てふためいておりましたが、先生方や学生のみなさんに助けて頂きながら前期を無事終えることができました。

今年度は2年生(C)、3年生(全)、4年生(C)の体育の授業を担当させて頂いております。どの学年の学生もみんな元気がよく、こちらからの指示も最小限で済み、最大限時間を有効活用してくれています。「体育」という授業を通じて学生のみなさんに培って頂きたいことがあります。まずは体力です。体力には2種類の体力が存在します。まず1つ目は「行動体力」です。これは筋力、柔軟性、持久力といった、いわゆるみなさんが想像される身体能力のことです。もう一つは、「防衛体力」という体力です。これは病気やストレスに対する抵抗力や免疫力、環境適応力などがあげられます。特にその中でもストレスに対する抵抗力をぜひ養ってほしいと思います。みなさんはこれから近い将来ご自身の夢に向かって邁進されることと思いますが、決してあまいものではありません。私自身もそうでした。

「鈴風」136号より転載

(長距離)です。1500mからウルトラマラソン(フルマラソン以上の距離)までと広いです。高専時代では全国高専体育大会にも出場したことがあります。いま思えば、旅行せずに練習をしておけばもっと大きな大会に出場できたのではないかと悔やんではいます。社会人になってからはフルマラソン、ウルトラマラソンの大会にも参加していますが、現在は競技志向から健康志向にシフトしつつあります。最近はランニングブームで走っていても白い眼で見られることはなくなりましたので、涼しくなれば通勤ランと称して白子駅から学校まで走って通いたいと思います。

長々と書いてしまいました。一年間という短い期間ですが、鈴鹿高専をたくさん吸収していきたいと思

います。よろしくお願

いいたします。毎日ストレスと闘いながら、時には1週間で体重が4kgも落ちたことがあります。そんな時になんとか平常心を保たせてくれたのが大好きな水泳でした。仕事終わりになんとか30分でも泳ぐように心掛けていました。そのおかげで心地よい疲労感が得られ、毎日ぐっすり寝ることができていました。嫌なことは水に流していたわけです。ストレスを上手く流してやる方法として運動をすることはとても有意義なことであると思いますので、みなさんも体育を通してそういった力を培って頂けたらと思います。もう一つ培ってほしいことがあります。それは「自ら積極的に行動する態度」です。座学と違って、体育は自分が動かないとないと何も始まりません。準備にしろ、片付けにしろ、誰かがしないと授業は成り立ちません。これまでの授業を振り返ってみてください。誰かがやってくれているのを待っていたことはありませんか?誰かがやってくれるまで待つのか、誰かがやる前にするでは大きく違います。たかが体育のことじゃないかと思うかもしれませんが、そういった些細な心掛けがみなさんを一回りも二回りも成長させてくれます。これらは大事な場面でいきなりできるものではありません。少しずつコツコツと養ってほしいなと思います。コツコツ行った今日の努力が明日の自分の背中を押してくれるはず

です。授業を通してみなさんが心身共に成長していくお手伝いをさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願